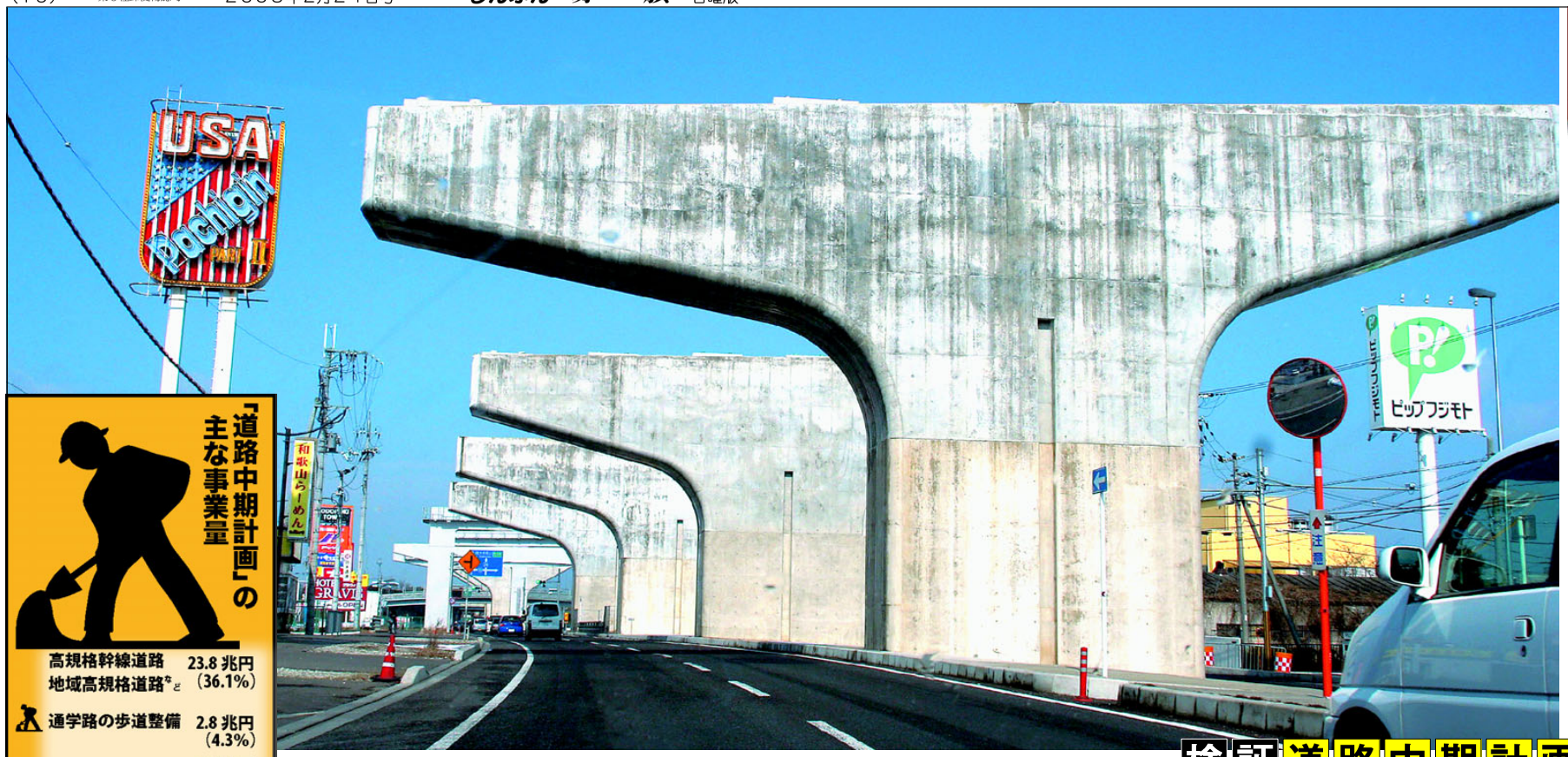
3歩あるけば2500万円

歯止めない高速道建設

検証 道路中期計画

歩けない生活道路

せまい、段差、側溝…



❶危険な生活道路を説明する前川悦子さんの背後にバスが迫ります＝奈良市大安寺西
❷20㌢もある垂直の段差が連続する悪路。脇を車が通りすぎます＝奈良市法華寺町

「道路中期計画」の主な事業量

高規格幹線道路 地域高規格道路※	23.8兆円 （36.1%）
通学路の歩道整備	2.8兆円 （4.3%）
防災・防雪対策	1.6兆円 （2.5%）
バリアフリー化	1.5兆円 （2.3%）

総額59兆円先にありき

そもそも1万4千㌔という数字は、日本経済がバブルに向かう時期の1987年、「第四次全国総合開発計画」（四全総）で決められたものでした。

小泉純一郎元首相は06年の国会答弁で、「整備計画区間9342㌔を超える路線は白紙」と明言しました。それを9割も超えて、総額59兆円先にありきの計画が進められてきたのです。

元凶は道路特定財源

道路特定財源は、ガソリン税や自動車重量税など自動車関連の税金を道路建設や整備だけに使うことができる仕組みです。こんな仕組みは世界を見渡しても日本にしかありません。

政府・与党はこの“聖域”を必死で残そうとしています。

道路特定財源のためにガソリン税などに上乗せされている暫定税率を10年延長するのはそのためです。これによりその税収を10年間、道路整備費の財源に充てなければならなくなります。

「行政改革推進法」（06年成立）では、「道路特定財源は一般財源化を図ること」を前提とする」と定めています。法の定めまでほごにして、計画を推し進めようとしているのです。

米軍住宅やカラオケまで

道路だけに使うという道路特定財源は、福祉や医療には回らず、とんでもない無駄づかいに投入されています。

■長崎県佐世保市で在日米海軍の将校住宅を、国土交通省が道路特定財源約28億円をかけて建設、提供。

■89～06年度に国交省の職員娯楽用としてマッサージチェアやカラオケセット、スポーツ用具や将棋盤など781万円で購入。

■03～05年度に国交省地方整備局が約80回、計5億円を支出して道路整備の啓発ミュージカルを上演。

こうした何でもありの使途に加え、雪だるま式に膨らんだ本州四国連絡橋の債務の穴埋めにまで使われていたのです。

その額、実に約1兆3千億円。この債務を本州四国連絡橋公団から切り離して、道路特定財源の自動車重量税で穴埋めしたのです。

共産党の考えは

▽道路特定財源は一般財源化し、道路にも福祉、教育にも使えるようにする。

▽総額（59兆円）先にありき、高速道路中心の「道路中期計画」は撤回。生活道路の整備を優先し、不要不急の道路建設を見直す政策に転換する。

▽道路整備のためだけに引き上げられてきた暫定税率は廃止。

▽排出量を考慮した環境税を導入する。

なんと！ 平城京の地下にも…

平城宮跡の朱雀門（復元）＝奈良市佐紀町

いま、国会で議論されている道路特定財源。最大の焦点は、今後10年間に高速道路中心に59兆円を使い切る道路中期計画で、際限なく高速道路を造りつづけるのかどうか――。取材で浮かびあがってきたのは、「そこのけそこのけ高速道が通る」の実態でした。

山田健介記者

古都・奈良県の中心部を車で走ると、異様な光景を目にします。道路中央に穴をうがつ巨大なコンクリート塊…。高速道路の橋脚部分だけが等間隔でかなたに続いています。

この橋脚は、京都府から奈良県内を南北に縦断し和歌山県に通じる約120㌔の「京奈和（けいなわ）自動道」の一部です。昨年末に政府・与党が決めた「10年間で59兆円を使う」という道路中期計画にもふくまれています。

京奈和自動車道の一部である大和北道路は、世界遺産・平城宮跡の一帯を4・5㌔の地下トンネルでくし刺しにする計画です。今月28日の奈良県都市計画審議会で計画決定するとしています。

平城宮跡には現在も、豊富な地下水で保存されている木簡などの貴重な埋蔵文化財があります。

トンネルを通すことで地下水位に多少の変化でもあれば、そうした貴重な文化財が消滅してしまう――。こんな危険が研究者らから指摘されています。

「高速道路から世界遺産・平城京を守る会」の小井修一事務局長は「大阪から和歌山へ抜ける高速道路はすでにあります。わざわざ、貴重な文化財を消失させる危険のある道路を交通量の少ない奈良につくる緊急性、必要性はありません」とあきれます。

地下トンネルを含む大和北道路の延長は約12・4㌔、総事業費は310億円にも。3歩（1㌔）歩けば2500万円という計算です。

この道路は、壮大な関西大環状道路構想の一部です。この構想には、和歌山県と、兵庫県・淡路島を結ぶ「紀淡連絡道路」なる長大橋建設という途方もない計画まで含まれています。